

### 【小野会長の挨拶】（概要）

まず、社員総会の開会に当たって、小野会長から次の通り挨拶した。

新型コロナウイルスの影響が続く中、総会を開催することができたこと及び外務省から森和也海外邦人安全課長並びに小野健邦人テロ対策室長にご来賓としてご出席いただいたことに謝したい。

新型コロナウイルスの感染が始まって、やっとな半年と未だ道半ばである。昨日ベトナムに向けて臨時便が出発し、駐在員や日本人学校の先生などが現地に戻り到着の様子がテレビ放映されていたが、他方で、ブラジル及びアメリカでは今まで以上に感染者が増えている現状である。我が国は今のところ軽傷で済み、いずれ各国の渡航制限が徐々に緩和され、海外における企業活動や観光旅行などが出来るようになることを期待している。

これからの課題は、今まで通りにはいかないということ、そして、個々人が自身の命を自ら守る心構えを持って、変化する情報を的確に把握することが一層重要になると思う。このため、官と民が今まで以上に一致協力して行かなければならない時代が到来したのではないかと思う。当協会も官民の繋ぎ役として引き続き努力を傾けて行く所存であるところ、皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

### 【ご来賓の挨拶】（概要）

次いで、外務省領事局森海外邦人安全課長から、総会開催への祝意と概要以下の挨拶を頂戴した。

外務省領事局においては、今年4月下旬以降まさにコロナ一色で、海外におられる邦人の皆様及び外国から入国又は帰国される方のコロナ関係業務に、領事局のみならず外務省全体で省を挙げて対応してきました。特に、私が担当している海外邦人安全の観点では「感染症危険情報」での情報の発信及び情報の共有を的確に行うことに心掛けてきました。各国・地域の感染状況に応じて危険レベルを1から2、その後3へと引き上げてきたことはご案内のとおりです。また、邦人の皆様への情報発信と共に、それぞれの国のコロナ感染の状況や日本に戻りたい場合にどうしたら良いかといった情報を「領事メール」「ホームページ」「たびレジ」などを通じ配信してまいりました。

2月から4月にかけて特に大きかったことは、世界各地に散らばっている邦人の皆様の帰国支援を行うことで、最初は、世界に先駆けて中国武漢から政府によるチャーター機を運行することで、外国籍の方を含め、邦人ご家族の皆様など八百数十名に無事に日本に帰っていただくことができました。それ以降、コロナが世界中に広がるにつれて、ほぼ全ての国・地域において様々な入国規制・国内移動規制がとられ、滞在されている国で動けない又は日本に帰れない日本人の方が多く出てまいりました。

これに対して、便数が減っても定期便が飛んでいる国については、定期便情報を案内すると共に便数を増やしてもらう交渉を行い、特に3月、4月以降は、国際線の運航を停止している国・地域において帰国を希望される邦人の皆様の支援を行うことが大きな要素となり、大使館・総領事館を通じた規制自体の緩和、必要に応じて臨時便、民間チャーター機の日本人会、旅行業界などによる手配の側面支援などを行ってまいりました。この点では茂木大臣がイニシアティブをとって、省内で毎日のように大臣、領事局、地域局が集まって、出国困難となっている国からどのような手法で邦人に帰っていただくのか検討を重ね、対応を進めてまいりました。この結果、先月末で約1万人を超える方に無事帰国いただくことができました。他方、各国における規制の一部緩和の動き、定期便が復活してきている国もあり、帰国を延期している邦人家族もおられますので、大使館・総領事館においては、そのような方々がおられる限り支援していきたいと思っております。

また、日本の水際政策は一義的には厚生労働省ということになりますが、外務省としても関心をもって、厚生労働省或いは官邸とも連携しながら、色々な国において規制緩和の方向が見られますので、人の国際的な往来をどのように復活させていくか、それをどう経済活動に繋げていくか、今後、皆様のニーズも踏まえながら対応を考えていきたいと思っております。昨日、ベトナムに臨時便を運行しましたが、一方で、アメリカ、中国（北京）において第二波といった話も聞こえてきております。コロナの状況を慎重に見極めながら、順次、緩和措置を検討して行くものと理解しています。

この半年、未曾有な状況の中で邦人の皆様の支援業務を行ってきて、日々が新しい経験でしたが、海外安全の面で医学、医療、検疫など専門的なことを含めて幅広い知識を持ってコロナに立ち向かっていく必要があると思っております。この点は企業の皆様も同じであると思えます。

最後に、色々な国からの帰国支援を通じた気付きの点について申し上げますと、「在留届」「たびレジ」の重要性を改めて痛感したということです。邦人の皆様への支援を行うに際して、邦人数を正しく把握することほど重要なことはございません。長期出張の方その他、登録もれとなっている落とし穴的なケースもありますので、企業の皆様におかれては、改めて「在留届」「たびレジ」の正しい登録に心掛けていただきたいと思います。更に、海外傷害保険の重要性をこれほど感じたことがない数カ月間でもありました。現地での入院、最悪の場合の緊急搬送といった場合に非常に大事ですので、重要性について改めて喚起させていただきます。

企業の安全担当の方とお話する機会がございますが、このような状況の中、企業にとって海外における問題に如何に対処するのが重要な課題となってきています。社内で海外安全の優先度が上がり、安全担当の皆様の仕事がより重要なものとなって、社内で存在感を示すべき時期と思えますし、海外邦人安全協会におかれても、このような時期を捉えて、より積極的な啓蒙活動や情報発信に努めていただきたいと思います。今、我々はコロナのリスクに対峙していますが、テロリストも存在していますし、地震なども発生し得る訳であり、外務省領事局内で手分けをして引続きこれらに対応して行くつもりです。この状況下でのテロ対策について、小野の方からも一言挨拶させていただきます。と付言し、森課長は挨拶を終えられた。

これを受けて、小野邦人テロ対策室長から総会開催への祝意と共に概要以下の挨拶を頂戴した。

外務省、領事局全体でコロナに対応している中で、武漢のオペレーションが1月にあり、2月以降、各国がどのような入国及び行動制限をとっているのか、結構大変な作業ですが常に確認すると共に各地域課にも相談しながら外務省海外安全ホームページの情報を日々更新しています。今は、緩和の動きが少しずつ出始めましたので、緩和の動きを纏める作業などに埋没していますが、このような状況の中でもしテロが起こったらとの懸念から、企業の皆様に外務省としてのメッセージ『コロナ時代のテロ対策』を月曜日（6月22日）に出させていただきました。ポイントは二つです。

一つは、『テロのリスクは本当に下がっているのか』ということです。英国のテロ当局などは、テロは、今は逆に病院などが狙いどころと考えていて警戒すべ

きであるとのメッセージを出しています。最近、英国南部の町（公園）でリビア出身のローンウルフと見られるテロリストが3名を殺害する襲撃事件が発生しており、フランスでも同様の事件が数か月前に起こっています。また、テロに加え、世界各地でヘイトクライムが非常に多く発生しています。1週間程前、アメリカで日系商店の壁にアジア人、日本人はホームに帰れ、帰らなければ爆破するという壁紙が貼られる事件が起こり、直ちに領事メールを出しました。今後このようなヘイトクライムが増大する懸念があり、テロ、犯罪などのリスクは決して下がってはいません。

もう一つは、『今テロが起こったら企業の皆様はどう対応されますか』ということ。テロ発生時に、本社から社員を呼ぼうと思っても、その国の入国制限により出張出来ないこともあるのではないか。或いは、社員を集めて対応会議をしようと思っても行動制限（テレワーク）状態で集まる出来ないのではないか。こうした状況を考えて、改めて『対策マニュアル』を見直して欲しい。この二点のポイントを込めて、外務省からメッセージを発出させていただきました。是非参考にさせていただきたいと思います。本日は、貴重な機会をいただきありがとうございました。

（了）